



宮崎県NIE 実践報告書

平成 25 年度
Newspaper in Education
— 教育に新聞を —

宮崎県 NIE 推進協議会

目次

NIE「質的な向上」本番へ

宮崎県NIE推進協議会会長 浜野 崇好

主体的に表現することができる児童の育成……………2
～ 国語科、総合的な学習の時間におけるNIE活動を通して～

高千穂町立上野小学校 教諭 高梨 望

自分の考えを的確に話すことができる児童の育成……………6
～ スピーチ活動における新聞の活用を通して～

串間市立大東小学校 教諭 門田 直光

地理的分野（世界地理）における新聞活用の工夫…………… 10

小林市立小林中学校 指導教諭 染矢 直樹

新聞を活用した小論文指導および公民科による授業研究…………… 14

宮崎県立飯野高等学校 教諭 飯田 正

新聞に親しみ、自分の考えをもち、表現できる児童の育成…………… 18

都城市立上長飯小学校 教諭 田中 美充

生徒が分かる喜びを味わえる指導法の工夫改善…………… 22

～ NIEを効果的に活用した基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指して～

宮崎市立本郷中学校 教諭 野口 貴史

社会問題に関心を持ち、意見を確立し、発信する生徒の育成…………… 27

五ヶ瀬中等教育学校 教諭 村社 文

2013年度「NIE実践報告書」

言語活動の充実、言語力を高めるために…………… 31

宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 高等部 国語科 教諭 海野 千尋

「新聞を読む」活動から「論文」まで…………… 37

日向学院中高等学校 教諭 黒岩 充秀

主体的に表現することができる児童の育成

～国語科、総合的な学習の時間におけるN I E活動を通して～

高千穂町立上野小学校

教諭 高 梨 望

1 はじめに

平成25年度よりN I E実践指定校となり、4・5・6年生を中心としたN I E活動に取り組んだ。

本校児童（全校児童76人）は、読書に対する興味・関心が高く、平成25年度の図書貸し出し目標冊数6100冊を2月上旬には達成することができた。昼休みだけでなく、休み時間にも読書に親しむ児童の姿が見られ、文字を読むことに抵抗はないように思われる。しかしながら、4月に6年生を対象にとったアンケートによると、「新聞を読んでいますか」という質問項目に対して「全く読まない」と回答した児童が、約50%にのぼった。家庭で新聞を購読している児童は半分以上いるが、それを手にとって読む児童は少ないことが分かった。

本校は小学生と中学生が同じ校舎で学ぶ小・中併設校である。小学生にとっては中学生とともに学ぶことで中学生を身近な目標とするとともに、中学生から学んだことを学習や生活に生かそうとする力を高めることができる。また、中学生にとっては小学生と接することで、思いやりの心や自己肯定感・自尊感情を高め、これまでに培ってきた知識の活用力をより高めることができる。

本校児童の実態、本校の特性をもとに、平成25年度はN I E実践指定校初年度ということもあり、「全く読まない」と回答する児童が少しでも興味をもつことができるよう、以下のような取組を行った。

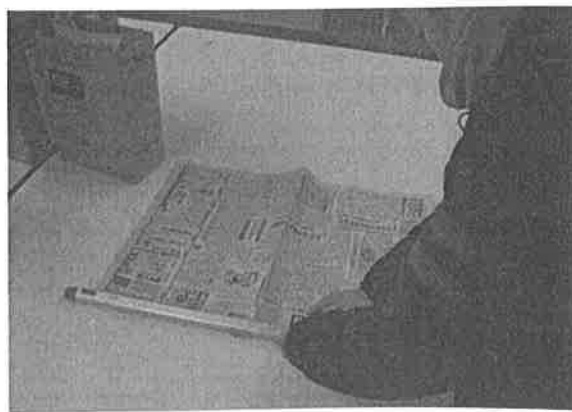
2 学校としての取り組み

実践指定校として、毎月3社の新聞を配達していただいた。9月からの実践を開始する前に、大人向けの新聞だけでなく、小学生向けの新聞をいただけないか宮崎県N I E推進協議会にお願いしたところ、小学生新聞も届くこととなった。

新聞の置き場所は、「人が多く通るところ」を意識した。そこで場所を考えたところ、全児童が使う靴箱前の広いスペースが最も多く通り、目立つところだったので、そこに新聞コーナーを設置した（写真①）。新聞挟み5段収納を購入し、当日配達された新聞、前日の新聞は、手に取りやすいように新聞挟みに挟んだ。それ以前の新聞は、綴りひもを使って、1ヶ月ごとに綴じていった。新聞の整理は、掲示委員会の児童が担当した（写真②）。



【写真① 新聞コーナー】



【写真② 新聞を整理する掲示委員会の児童】

3 実践事例

(1) 新聞に興味をもたせるための工夫

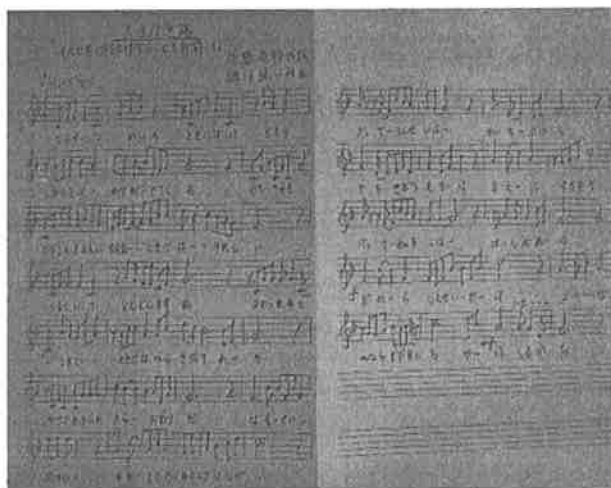
上述したように、本校の児童の中には新聞を全く読まない児童も多く、新聞記事を要約したり、新聞を作成したりする以前に、新聞自体に興味をもたせることが必要だった。そこで、1学期は以下の取組を行った。

ア 新聞掲載コーナーの設置 (写真③)

毛筆の時間に作成した習字を新聞社に送り、掲載していただいた。自分の作品が載るのを楽しみにするようになり、少しずつ興味をもたせることができた。11月には習字全員掲載を達成することができ、学級のまとまりも深まった。また、国語科で作成した詩や短歌、作文等も進んで投稿した。多くの作品が新聞に載ったことで、児童の自己肯定感も高めることができた。また、子ども新聞に掲載された詩を見て、それに曲を付けてプレゼントして下さる方がいらっしゃったり (写真④)、「若い目」に掲載された作文に対するお褒めの感想ハガキを頂いたりするなど、読み手からの反応も返ってきて、児童の表現する意欲が増した。また、2学期からは児童が自主的に学級新聞を作成し、学校行事や本紹介、漫画紹介等、楽しく新聞作りに励み、友達が作成した新聞を楽しそうに見る姿が見られるようになった。



【写真③ 新聞掲載の紹介コーナー】



【写真④ 曲を付けて頂いた詩】

イ 新聞記者の活用

4、5、6年生は、「学校に宮日がやってくる」を活用し、宮崎日日新聞社読者局読者室員の小川清一郎さんをゲストティーチャーとしてお招きし、新聞作りについて学んだ。

学年	教科名	単元名・領域	目標・ねらい
4年生	国語科	取材したことをもとに新聞を作ろう	新聞の形式を知り、全体のレイアウトや見出しの立て方について考える。(班ごと)
5年生	総合	お米についてまとめよう	地域の農業について調べたり、インタビューしたりして、新聞形式にまとめ、地域のよさに気付かせる。(一人一人)
6年生	総合	神楽にしてまとめよう	高千穂神楽について調べたり、講話を聞いたりして、新聞形式にまとめ、引き継がれる伝統の素晴らしさに気付かせる。(一人一人)

4年生（10人）の実践では、持久走大会や遠足などの学校行事、スポーツ少年団の活躍、アンケート調査の結果等を、3つの班に分かれて新聞を作った。

4年生は新聞についての学習も初めてであったので、まず新聞の形式やレイアウト等、新聞の基礎について小川さんに教えていただいた。（写真⑤）その後、班ごとに作成した新聞を推敲していただき、細かくアドバイスをいただいたりして、立派な新聞を作成することができた。



【写真⑤ アドバイスを受ける4年生】

5年生の実践では、1学期から総合的な学習の時間に学習してきた上野の農業について、一人一人新聞を作った。

5年生は、1学期の国語科の授業で新聞について学習した。小川さんから新聞についての知識を教えていただいたことで、1学期の学習を深めることができた。12月に農家の方にインタビューしたことを新聞にまとめ、1月に推敲していただき、アドバイスをいただいた。（写真⑥）



【写真⑥ 見出しについて講義を受ける5年生】

6年生の実践では、神楽についてまとめる前に、11月の修学旅行で学んだことを新聞形式にまとめさせた。題名と見出しの立て方、常体と敬体等のアドバイスをいただいた後、神楽について調べて分かったこと、神楽についてのゲストティーチャーの講話を聞いて知ったことを、再び新聞形式にまとめさせた。その新聞も小川さんに推敲していただき、自分が作った新聞をよいものにすることができた。（写真⑦）



【写真⑦ 左 推敲を受けた新聞】

(2) 新聞の要約活動

本校は小中併設校で、身近にお手本になる中学生がいる。中学生が毎日の課題で取り組んでいる新聞の要約・感想を、6年生も週末課題として取り組むこととした。小学生子ども新聞から気になる記事を上半分に載せ、下半分に200字の要約、100字の感想を書くスペースを設けた。小学生新聞はふり仮名も打っているため読みやすくなっているが、始めた当初は、新聞記事の大切なキーワードを探ることができない、探し方が分からない児童も多く見られた。しかし、友達の要約文、中学生の要約文を目にするうちに、要約のポイントを理解することができるようになってきた（写真⑧⑨）。



【写真⑧ 新聞要約コーナー】

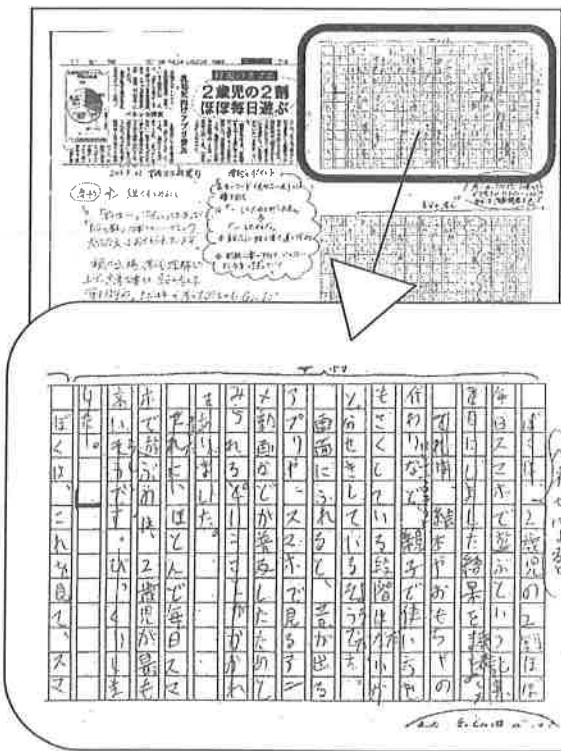


【写真⑨ 減反政策に関する要約】

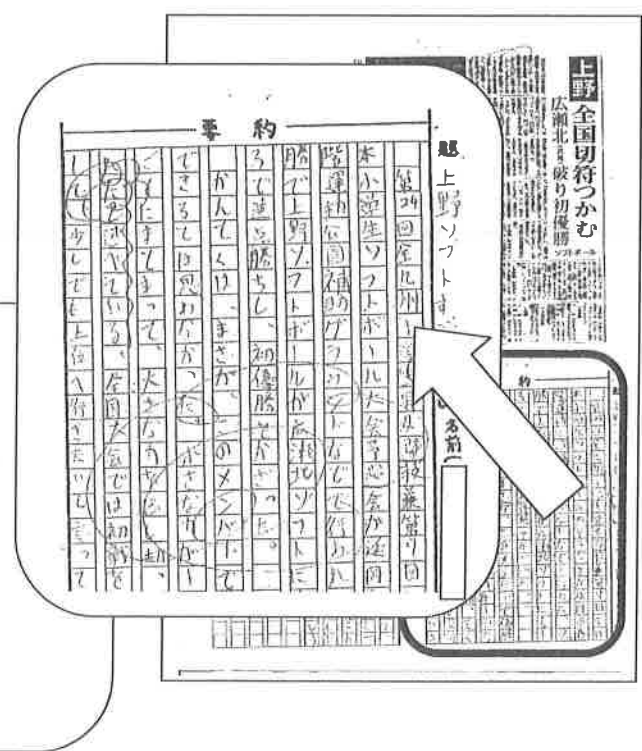
4 実践前後の変化

10月から新聞の要約活動に取り組んだ。週末だけの取組で短期間ではあるが、少しずつ要約の文章が書けるようになってきた。以下は、児童が10月に取り組んだ要約文と12月に取り組んだ要約文である。

【写真⑩ 10月に書いた要約文】



【写真⑪ 12月に書いた要約文】



5 成果と課題

- 小学生新聞を配達していただいたことで、1月に再調査したところ「新聞を全く読まない」と回答した児童は大幅に減った。児童は、新聞にはどのようなコーナーがあるかを知り、新聞に興味をもつことができた。
- 新聞社の方から新聞の書き方を指導していただいたことで、見出しの重要性、文章の統一性等を考えながら表現することができた。
- 児童に分かりやすい新聞記事を週末課題で要約させたことで、要約する力が身に付きつつある。
- 配達された新聞を活用しやすいように、スクラップを工夫する必要がある。
- 年間を見通して時数を考慮しながら、児童の実態に即した計画を立てる必要がある。

自分の考えを的確に話すことができる児童の育成

～スピーチ活動における新聞の活用を通して～

申間市立大東小学校
教諭 門田直光

I はじめに

現在、「生きる力」を育むために、学校教育を通して確かな学力を身に付けさせることが求められている。学校教育法第30条2項の中で「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」としており、思考力、判断力、表現力の育成が重要視されている。

本校は全校児童が130名ほどの規模である。その中で、私は第6学年の学級担任をしている。児童数は、男子12名、女子18名、計30名の学級である。学習において、自ら進んで発表する児童は数名見られるが、固定化された児童のみの発表が多い。また、指名し意図的に発表させる場合にも、自分の考えを最後までうまく伝えることができない児童の姿も見られる。

児童を対象としたアンケート調査においても、「進んで発表することができますか」という設問について、「よくできている」「大体できている」と肯定的な回答を行った児童は、30名中15名(50%)であった。

また、「自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができますか。」という設問に対して肯定的な回答を行った児童

は30名中12名(40%)であった。実際、朝のスピーチを行っている姿を見ると、うまく話し始めることができなかつたり、途中で話しが止まったりしまう児童の姿も見られた。

自分の考えをもたせ、伝える内容を整理させながら、表現力を身に付けさせることが大切であると考えた。

そこで、これまでの担任をしていた学年でも行ってきたスピーチ活動を充実させることによって自分の考えを的確に話すことができる児童の育成につなげようと考え、本主題を設定した。

II 研究仮説

○ 朝の常時指導において様々な話題について話す場を設定するとともに、書いたことをもとに話しをすることで内容が精選され、相手に的確に話す能力を育成することができるであろう。

III 研究内容

1. 「話すこと」についての理論研究
2. 話す場の設定と新聞活用
3. スピーチ活動の流れの設定

IV 研究の実際

1. 「話すこと」についての理論研究

(1) 小学校学習指導要領から

小学校学習指導要領解説国語編では、第5学年及び第6学年の「話すこと」の目標を、「目的や意図に応じ、考え

たことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」としている。

本研究にあたっては、「的確に話す」ことを、自分の伝えたい内容について順序よく整理していくことと捉える。

(2)「話すこと」と「書くこと」の関連性

北杜夫は、著書「言語活動は授業をどう考えるか」において、「話す活動を充実させる上で、事前を書くという活動はきわめて重要な意味をもちます。」と述べている。

そこで、「うまく話し始めることができない」といった学級の実態を踏まえ、書く活動を事前に取り入れて、話す内容を整理させる。その上でスピーチ活動を行わせることでの確に話すことができるのではないかと考えた。

2. 話す場の設定と新聞活用

(1) 話す場の設定

話すことを充実させるためには、定期的に話をする場を設定する必要があると考えた。

そこで、毎日の活動である朝の会において「1分間スピーチ」の時間を設定した。さらに、一人一人が数多く発表できるように一回の活動の中で二人が発表するようにした。さらに、発表後は、お互いに感想を述べ合う時間を

設けるようにした。

(2) 新聞の活用

これまでのスピーチの在り方について、児童に尋ねたところ、心に残った出来事や行事の発表が多かったという回答があった。そこで、スピーチの題材を広げるために、新聞を活用することとした。2学期についてはスピーチのテーマについて月ごとに設定した。その中に「心に残った新聞記事」というテーマを新たに設けることとした。

月	スピーチのテーマ
9月	学校行事などの思い出
10月	おもしろかった本
11月	修学旅行の思い出
12月	心に残った新聞記事

【2学期の朝のスピーチ活動のテーマ】

(3) 活動の実際

新聞を読むという時間を設定したことによって新聞を意欲的に読む姿が見られたり、また、複数の新聞を読み比べたりといった活動が見られた。友達同士でも、記事の内容や感想などについて意見交換を行いながら、スピーチメモをまとめていく姿が見られた。しかし、時間設定が短かったため、「まだ読みたい」と感じている児童の意見も多く挙がった。じっくり本文について読み深めていく時間も必要であると感じた。

また、話す機会を意図的に設定した

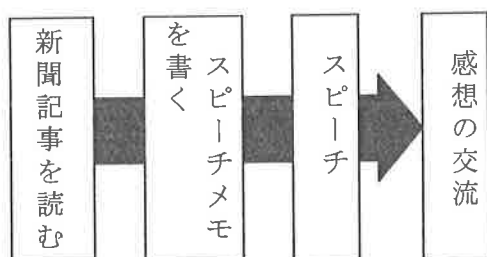
ことによって、最初は、スピーチを始めるまでに少し時間がかかった児童も最後までしっかり発表することができるようになってきた。

3. スピーチの流れの設定

(1) 活動全体の流れ

新聞を活用しながら、スピーチへとつなげるために、図1のような流れを設定した。

まず、月曜日の朝の15分間を活用し、新聞にふれ、記事を読むようにした。そして、次の朝の15分間で、スピーチメモを書かせた。さらに、メモをもとにスピーチを行うようにした。また、発表についての感想を述べ合うというような流れを設定した。



【図1 スピーチ活動の流れ】

(2) スピーチメモの書き方

スピーチを行うために必要な内容について、記事のタイトル及び概要、さらに分かったことについてノートに順序よくまとめさせるようにした。また、記事については、一つではなく、複数の記事について書かせるようにした。

(3) 活動の実際

話す前に、「記事のタイトル」、及び「概要」、さらに「分かったことや感

想」の順序に従ってスピーチメモを書く活動を取り入れたことによって、スピーチでも、途中で止まったりすることなく、的確に話をすることができた。

また、感想の交流の時間を設定することによって、自分と同じ新聞記事について発表した児童も、意見の述べ方の違いを感じ取りながら感想を発表することができた。

しかし、2学期に国語科で学習した「新聞記事を読み比べよう」の学習を生かして、複数の新聞記事を比較して共通点や相違点を発表するところまでには至らなかった。今後、さらに国語科との関連を図った系統的な指導を行っていく必要があると感じた。

V 研究の成果と課題

年度末に、実践した内容について児童を対象にアンケートを実施した。以下に示すのがその結果である。【 】内の数値は、実践前のアンケートとの比較である。

設 問	30人中 (%)
進んで発表することができますか	16人 (53%) 【+3】
自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができますか。	16人 (53%) 【+13】

「自分の考えを分かりやすく伝えることができる」ことについては、調査前の9名から15名と増えた。また、実際のスピーチの場面でも最後まで堂々とスピーチを行う姿が多く見られるようになった。

しかし、主体的な表現ができるという児童への変化が見られなかった。自信をもって発表を行うところまで高めることができなかった。今後、主体的な表現力を高められるような指導の在り方について研修を深めていきたい。

VI おわりに

最近では、携帯電話等の普及により活字離れが叫ばれている。しかし、実際に新聞を読む子どもたちは、様々な記事を意欲的に読んでいた。このような機会を設けていただいたことに感謝を述べたい。

○ 参考文献

- 1 「小学校学習指導要領解説国語編」
文部科学省 平成20年 東洋館出版社
- 2 「言語活動は授業をどう変えるか ―
考え方と実践のヒント―」
北俊夫著 2011年 文溪堂
- 3 「新聞活用の工夫提案 NIEガイド
ブック 小学校編」
日本新聞協会 2011年
- 4 「ひろがる つながる新聞活用」
日本新聞協会 2011年

地理的分野（世界地理）における新聞活用の工夫

小林市立小林中学校
指導教諭 染 矢 直 樹

1 はじめに

何のために社会科を勉強するのか。生徒の意欲を喚起するためにも、その理由をしっかりと伝える必要がある。全国中学校社会科研究会会報（第76号）に、社会科を学ぶ意義が以下のように明記してある。

「社会科を学ぶ意味は、社会や世界がわかる生徒をつくることである。社会がわかるとは、生徒が豊富な情報をもとに、システムがどのようになっているのか、なぜそうなっているのかを、自分の言葉で説明、表現できるということである。」自分自身も次のような視点に立って社会科の授業を構築してきた。1つ目は「社会のしくみがわかるためのキーワード」を学ばせることであり、2つ目は社会的事象の背景や因果関係のおもしろさをわからせることである。

また、OECDはこれからの知識基盤社会を担うために必要な能力をキー・コンピテンシー（主要能力）と定義しており、現在、この能力を育む教育が求められている。このような状況を踏まえ、社会科の目標である公民的資質の育成のためにも、新聞の果たす役割は大きいと考える。

2 生徒の実態（アンケート結果より）

今回、対象となる生徒は中学1年生（6クラス…179名）であり、どのような意識を持っているのか。入学した4月の段階でアンケート調査を行った。

- Q1 あなたは社会科が好きですか？
→ 好き（62%） 嫌い（38%）
- Q2 地理的分野と歴史的分野はどちらが好きですか？ → 地理（32%） 歴史（68%）
- Q3 世界の国をいくつ知っていますか？
→ 10カ国以内（41%） 20カ国以内（51%）
20カ国以上（8%）
- Q4 新聞を読みますか？
→ ほとんど読まない（50%） 時々読む（42%） よく読む（8%）
- Q5 TVのニュースを見ますか？
→ ほとんど見ない（8%） 時々見る（48%）
よく見る（42%）

このアンケート結果を受けて、次のような考察を行った。

- 基本的に社会科が好きな生徒が多い。（特に男子生徒）また、7割程度が歴史を好み、地理が好きな生徒は少なかった。
- 世界の国を知らない生徒が多い。20以上の都道府県を知っている生徒は53%いるが、20カ国以上を知っている生徒はわずか8%であった。これは、小学校の社会科では日本地理と歴史的分野の学習が中心であることが影響している。
- 新聞をよく読むと答えた生徒は8%に過ぎなかった。TVのニュースを見る生徒は多かったが、ほとんど見ない生徒（8%）もいた。新聞を読まない理由として、「語句が難解でおもしろくない」「家庭で新聞を取っていない」等があげられた。

生徒の実態を把握したうえで、今年度に取り組む2つの目標を立てた。

- 学力向上も含めて、社会科が好きな生徒を増やしたい。特に世界地理への興味・関心を高めたい。
- 社会的事象に興味や関心を示す生徒を増やしたい。TVや新聞のニュースを話題にし、その社会的事象に対して自分なりの考えをもてる生徒を育成したい。

この2つの目標を実現するために、新聞をどのように活用すべきかを考えて実践を行った。ただし、新聞を活用する際に、中学1年生という発達段階も含めて、次の2つの課題が浮かびあがってきた。

【課題1】 難解な語句や内容に拒否反応を示す生徒への対応をどうすればよいか。

【課題2】 学習意欲を維持し、新聞活用を継続的に行うにはどうすればよいか。

2つの課題の解決についても視野に入れながら、「授業における新聞の活用」「新聞紹介コーナーの設置」に取り組んでみた。

3 授業における新聞の活用

生徒の実態において、TVのニュースを好む生徒が多いことから、毎時間の社会科授業の冒頭でイン

ターネットのニュース動画を2~3つ程度見せることにした。YouTubeにFNSやANSのニュースチャンネルがあり、最新のニュースを伝えるために活用した。その際、関連する新聞記事にもふれるように心がけた。次に実際の授業で新聞をどのように活用していったのかを示してみる。



(映像ニュースを見るようす)

(1) 単元「世界各地の人々の生活と環境」

【 本時の目標 】

- ・大洪水が起こった原因を考え、その予想を検証する手立てを身につけることができる。
- ・資料の読み取りや調べたことを確かめる活動により、タイの人々の生活と環境が理解できる。

【 本時の流れ 】

- タイ洪水の写真と映像を見る。

なぜ、大洪水が起こったのだろうか？
- 学習問題の答えを考える。
- 短冊黒板に書かれた意見(予想)について全体で確認する。
- 予想の検証のため、「大洪水の謎を解け！」の資料を読む。
- 全員で音読し、設問に答える。

「大洪水の謎を解け！」は、洪水の原因を具体的に述べた日経新聞などの新聞記事をわかりやすくまとめたものである。洪水の原因となった降水量、土地の低さ、環境破壊、都市化等について書かれた「読み物資料」である。この資料から原因を読み取らせ、自分たちの予想が正しかったかを確かめさせた。社会的事象の因果関係を正確に読み取らせる際に、新聞記事はかなり有効な資料となる。また、【課題1】の解決のために、難解な語句は平易なものに改め、ふりがなもつけるように工夫した。

(資料1) プリント「大洪水の謎を追い！」

資料プリント (タイ大洪水の謎を解け! パート1)

資料は数社の新聞記事から抜粋して作成した。

難解な語句にはふりがなをつけ、語句の説明も付け加えた。

この予想以上に雨が多く水が貯まりすぎた。そこであわてて大壘に放水したところでも決壊(けつがわ)で洪水が発生(はっせい)した。また、バンコク市内の海堤(かいばつ)はほとんどタイ北部の村では、今でも多数(たうすう)の山岳(さんかく)地帯(ちたい)がある。そして、都市(とし)化(か)したところがコンクリートで固(かた)められ、洪水(こうすい)が貯(たくわ)えられた。

① 海堤(かいばつ)は、海(うみ)から陸(りく)地(ち)の境(さかい)をよこす堤(つと)である。② 決壊(けつがわ)は、大(おほ)きな水(みづ)がこぼれ出すこと。③ 放水(はっせい)は、水を貯(たくわ)えられた場所(ばしょ)から、水を放(はな)すこと。④ 固(かた)められるは、コンクリート(こんくりーと)で固(かた)められること。⑤ 山岳(さんかく)地帯(ちたい)は、山(やま)のふもとや谷(やま)の奥(おく)にあり、水(みづ)がたまりやすいところ。⑥ 都市(とし)化(か)は、田舎(いなか)の村(むら)が、大(おほ)きな町(まち)になること。⑦ 海堤(かいばつ)は、海(うみ)から陸(りく)地(ち)の境(さかい)をよこす堤(つと)である。⑧ 決壊(けつがわ)は、大(おほ)きな水(みづ)がこぼれ出すこと。⑨ 放水(はっせい)は、水を貯(たくわ)えられた場所(ばしょ)から、水を放(はな)すこと。⑩ 固(かた)められるは、コンクリート(こんくりーと)で固(かた)められること。⑪ 山岳(さんかく)地帯(ちたい)は、山(やま)のふもとや谷(やま)の奥(おく)にあり、水(みづ)がたまりやすいところ。⑫ 都市(とし)化(か)は、田舎(いなか)の村(むら)が、大(おほ)きな町(まち)になること。

【日本経済新聞】、「暹(えん)土(ど)大(たい)水(すい)災(さい)ビジネス等(とう)報(ほう)」より抜粋(りゃくすい)。(要約)

○ 上の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

- ① 2011年、タイに降(ふ)った雨(あめ)は例(れい)年の何(なん)倍(ばい)多かったか？ ()倍(ばい)
- ② 大洪水(おほいなるみづ)のため何(なん)の水(みづ)を放(はな)したのですか？ ()倍(ばい)
- ③ バンコク(ばんこく)市内(しやうじん)の海堤(かいばつ)は何(なん)以内(い以内)ですか？ ()倍(ばい)
- ④ 洪水(こうすい)は、海(うみ)から陸(りく)地(ち)の境(さかい)をよこす堤(つと)である。
- ⑤ 山岳(さんかく)地帯(ちたい)は、山(やま)のふもとや谷(やま)の奥(おく)にあり、水(みづ)がたまりやすいところ。
- ⑥ 都市(とし)化(か)は、田舎(いなか)の村(むら)が、大(おほ)きな町(まち)になること。
- ⑦ 海堤(かいばつ)は、海(うみ)から陸(りく)地(ち)の境(さかい)をよこす堤(つと)である。
- ⑧ 決壊(けつがわ)は、大(おほ)きな水(みづ)がこぼれ出すこと。
- ⑨ 放水(はっせい)は、水を貯(たくわ)えられた場所(ばしょ)から、水を放(はな)すこと。
- ⑩ 固(かた)められるは、コンクリート(こんくりーと)で固(かた)められること。
- ⑪ 山岳(さんかく)地帯(ちたい)は、山(やま)のふもとや谷(やま)の奥(おく)にあり、水(みづ)がたまりやすいところ。
- ⑫ 都市(とし)化(か)は、田舎(いなか)の村(むら)が、大(おほ)きな町(まち)になること。

資料内容をしっかり読み取らせるために、設問(せつもん)を用意(ようい)した。

この授業では学習課題に対して、自分なりの予想を立て、その予想が正しいかどうかを検証することをねらいとしていた。新聞記事をもとにした資料を検証のツールとして活用することで、スムーズに検証作業を行うことができた。

(2) 単元「アフリカ州」

【 単元の目標 】

- ・日本がアフリカ諸国に多額の援助をしていることから、学習課題を設定することができる。
- ・資料の読み取りやアフリカ州の学習を通して、本当の援助について考えることができる。

【 単元の流れ 】

- 安倍総理とワタラ大統領の写真を手がかりに、多額の援助をしていることに気づく

なぜ、多額の援助をしているのだろうか？
- アフリカの地下資源や人口が急増している事実を知る。
- アフリカの抱える課題を確認する。
- 新聞記事「ゾマホンさんの夢」を聴き、本当の援助とは何かを考える。

(資料2) 安倍総理とワタラ大統領



本単元の導入において、2014年1月14日付の新聞記事より上記の写真を紹介した。この写真は安倍総理がコートジボアールのワタラ大統領と共同記者会見を行った時のものである。この写真をもとに、日本が多額の援助をアフリカ諸国に行っていることに気づかせた。ここから学習課題「なぜ、多額の援助を行っているのだろうか？」を設定し、学習を深めていった。最終的には、飢餓、内戦、エイズといったアフリカが抱える課題について理解させた。

最後のまとめとして、「本当の援助とは何か？」を考えさせた。その際、ベナン共和国の駐日大使であるゾマホンさんを取り上げた。ゾマホンさんについては教科書に掲載されているが、朝日新聞のインタビュー記事には、生き立ちや苦勞、これからの夢について詳しく紹介してある。

今回は【課題1】の解決のために、ゾマホンさんのインタビュー記事を教師の読み聞かせの形で伝えることにした。難解な語句は補足しながら、これまでに学習したアフリカの課題を思い出させるように読んでいった。インタビュー記事を聴かせることにより、生徒の思考の深めることができたと感じている。生徒の考えた「本当の援助とは何か？」を示してみる。

- 本当に援助とは、まず、アフリカの人々に、物を大切にすることやどうすればみんなが幸せに暮らせるのかなどを教える必要があると思います。井戸を作ってあげても、その部品が売られてしまうと聞きました。ただお金だけを渡すのではなく、将来のことまで考えて行動できるように、「知識」をしっかりと伝えるとよいと思います。
- 私が考える本当の援助とは、アフリカの子供たちのために都会だけではなく、すべての場所で住

みやすい街を作ってあげることだと思います。教育や食料も必要だけど、まずは身近な環境を変えることで、学校や病院を作ることができるはずで。そして、男女関係なく平等な教育が大切だと思います。大人たちにとっても働きやすい町をつくってあげることも必要です。まず、町づくりから変えていくこと、それが私の考える援助です。

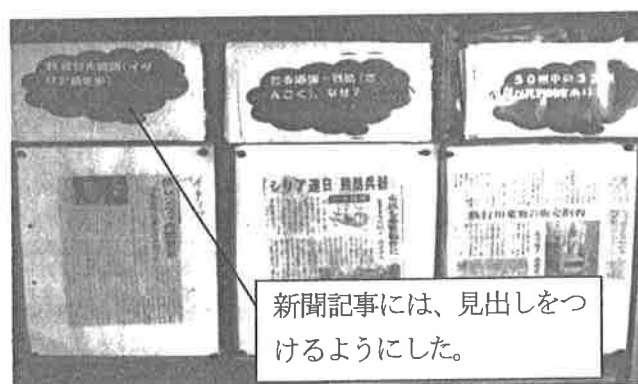
生徒には援助＝お金、募金をして貧しい国に渡せばよいという認識が強かった。このように新聞記事を有効に活用することで、教科書だけに頼らない発展的な学習を行うことができた。また、学習内容に合った新聞記事を選ぶ際に、朝日新聞社の「朝日 Teachers'メール」は大変参考になった。

4 新聞紹介コーナーの設置

授業における新聞記事の活用例について述べてみたが、もう一つの課題である継続性【課題2】を解決するために次の3点に留意しながら、身近な学習環境づくりとして「新聞紹介コーナー」を設置した。

- ① 2週間ごとに世界の国々に関する記事を選び、「紹介コーナー」に掲示した。また、紹介した国は世界地図に印をつけて印象付けた。
- ② 記事に興味を持たせるために、クイズ形式の見出しをつけるようにした。
- ③ 掲示した記事については授業中に紹介し、記事の内容を定期テストに出題した。

(資料3) 新聞紹介コーナー



(資料4) 見出しの内容例

記事の内容	見出し
本田選手がACミランに入団	ACミランとはどこの国のチームでしょうか？
インドの大気汚染が中国より深刻	中国よりも大気汚染が深刻な国はどこでしょうか？

(資料5) 新聞記事からのニュース問題例

○ 女子の教育を受ける権利を訴えて、昨年10月にイスラム武装勢力「バクスタンのタリバン運動」に頭部を撃たれ重傷を負った少女の名前は何と云いますか。この少女は2013年の「国際子ども平和賞」受賞者に決まりました。この少女の勇気と行動はすばらしいです。

ア アララさん イ シンリアさん ウ マララさん エ アイコさん

○ 2020年の夏季五輪は東京です。イスタンブール、マドリッド、東京の3都市から選ばれました。最終候補となったヨーロッパの国はどこですか。

ア スペイン イ ブラジル ウ オーストラリア エ マリ

見出しについてはクイズ形式で答えさせるようなものとした。また、定期テストのニュース問題は、毎回5問を出題して四択で答えを選ばせた。小さな工夫であったが、少しずつ「新聞紹介コーナー」に集まる生徒の数が増えていった。

5 その他(学年としての取組)

学年全体の取組として、朝自習の時間において読売新聞社の「読売ワークシート通信」に取り組ませた。キャッチフレーズ「最新の記事や写真を題材に、考えて書く力を養う」とあるように、学年の先生方からとても好評であった。また、道徳や学活、国語の授業でも活用がなされていた。

6 おわりに

中学1年生という発達段階における2つの課題を意識して、今年1年間、「授業における新聞の活用」「新聞紹介コーナーの設置」の2つの実践に取り組んでみた。4月当初のアンケート結果と現在を比較してみると、確かな成果が感じられる。まず、現在では8割以上の生徒がTVのニュースや新聞記事に興味をしめすようになってきた。また、7割以上の生徒が40カ国以上の世界の国々の国名と位置が理解できるようになった。自分の考える社会科の目標は、社会や世界がわかる生徒をつくることである。そして、社会科が好きな生徒を育てることである。その意味では今年の2つの実践は、ある程度満足できるものであった。今年1年間の社会科の授業を振り返って、生徒は次のような感想を述べている。

・ ニュースや新聞などを見て、たくさんを知ることができました。今、世界ではどんなことが起こっているのかなど、今まで知らなかった世界が開けてきました。世界の国々を知ることとは

でもおもしろく、「地理がこんなに楽しいんだ」と改めて思うことができました。

- ・ 社会の授業で一番印象に残っていることは、各国のニュースを見て、新しい発見ができたことです。今までニュースを見る機会は少なかったけど、少しずつ興味をもてるようになり、今どんなことが起こっているのだろうと思うようになりました。このことは、将来、役に立つことがあると思うし、ニュースや新聞を見る習慣は続けていきたいです。
- ・ 私は社会科が苦手で、中学校の社会科についていけるか不安でした。しかし、地理の授業はおもしろいし、毎時間ニュースを見ながら、その国の位置を地図帳で探していくと、いつの間にか覚えていてびっくりしました。入学した時は、あまり世界の国々を知らなかったのですが、今ではたくさんの国名が書けるような気がします。(笑)

このような感想を読むことで、自分自身の励みになるし、これから新聞をどのように教材化していこうかという新しい意欲もわいてくる。まさしく、新聞は生きた教材であり、生徒の思考をより深める意味で大切なツールになりうると思う。今年は主に世界地理を教えるにあたって、新聞を使って生徒の学習意欲をどのように喚起させるかに重点を置いてきた。今後、国語科などと連携を図り、「言語活動の充実」「表現力の育成」を目指した実践にも挑戦してみたい。自分自身、楽しみながらNIE教育に取り組めたことに感謝したい。

【参考文献等】

- 中学校学習指導要領解説 社会編(文部科学省)
- 平成24年度 宮崎県NIE実践報告書(宮崎県NIE推進協議会)
- 新学習指導要領とNIE(NIE教育に新聞を)
- 新しい社会 地理(東京書籍)

新聞を活用した小論文指導および公民科による授業研究

宮崎県立飯野高等学校
教諭 飯田 正

■飯野高等学校

本校は、各学年普通科2クラス、生活情報科1クラスからなる小規模校である。入学してくる生徒は、学力の差が非常に大きく、また、希望進路も国公立大学から就職までと多種多様であり、進学希望者の大多数は推薦入試を利用する。推薦入試の多くは、志望理由書、小論文、面接が課される。就職試験においても、履歴書、作文、面接試験が課される場合が多い。これらのことから、文章表現力、コミュニケーション能力、基礎学力・一般常識等の力が希望進路達成には欠かせない。これらについては、平成23年度までは、3年次6月からの個別指導（生徒一人一人を全教員に割り振り、進路達成まで指導する）を中心に育成を図ってきた。しかし、これらの力が短期間に身につくものではないことは周知の事実であり、多くの職員が早い段階からの組織的な指導体制整備の必要性を指摘していた。そこで、「小論文プロジェクト委員会」を立ち上げ、効果的かつ効率的な指導法の研究をスタートした。

■本校の取り組みの詳細

(1)新聞を活用した、全校生徒対象の全職員による小論文指導

平成24年度から、毎週月曜日の朝課外において、全校一斉に新聞記事を読ませ、それを丁寧に書き写す指導を行った。さらにワークの問題に取り組み、自分の考え方や意見を記述する学習に取り組んだ(図1・2)。全職員が指導できる

ように指導案を準備し、各分野の担当の先生方に統一した指導ができる環境を整えた。(図3)

<図1>ワークプリント表面



<図2> ワークプリント裏面



〈図3〉朝課外学習指導案

時間	学習内容	指導事項	留意事項
7:45	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:47	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:48	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:49	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:50	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:51	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:52	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:53	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:54	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:55	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:56	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:57	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:58	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
7:59	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:00	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:01	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:02	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:03	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:04	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:05	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:06	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:07	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:08	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:09	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:10	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:11	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:12	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:13	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:14	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:15	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:16	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:17	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:18	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:19	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:20	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:21	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:22	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:23	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:24	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:25	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:26	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:27	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:28	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:29	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。
8:30	【ワークシート】 「マニフェスト」の読み取り	「マニフェスト」の読み取り	よく読み取れているか確認する。

総合学習の時間には、朝課外で学習したワークの中から、自分で選んで小論文を実際に書いてみる〈図4〉。次の時間には先生・生徒による講評の時間がある。

〈図4〉小論文を書くポイント

NEWSワーク②「マンドラ元大統領死去」で小論文を書く人

【問題】
大統領と聞けばマンドラ元大統領の死に、世界中からその死を惜しむ声が上がっています。マンドラ元大統領の生き方をあなたはどのように思いますか、あなたの考えを900字以内で論述せよ。

【ワンポイント】
まず、元大統領がどんな生き方をし、どんな人物だったかということを書くことと良いと思います。そして、その前に「その生き方を私は・・・」と続ける方が良いと思います。

○「書く」という行為は、「自分との対話」です。読む人に分かってもらうにはどうしたらいいか、自分の心の中で考えながら書きましょう。

本校は学担3人制で指導を行っているため、1セット3分野を学習する。その中から、自分が興味、関心を持った分野を選び、小論文を書き、講評するという流れである。この取組みを毎年実施している。

(2) 新聞を活用した公民科の授業研究

■ マニフェスト作成と活用

○単元名「第3章 日本の政治機構と政治の課題 政党政治と選挙」
選挙制度の仕組みについて学ぶなかで、実際に国政選挙で使用された各政党のマニフェストを授業で提示し、重点項目の内容について説明をする。そこで具体的なイメージを生徒に考えさせた。その後、実際に「地域活性化」をテーマにマニフェストを作成させ、その必要性について考察させ重要性を理解させる。

マニフェスト作成においては、事前に私が作成したもの(右図)を生徒に配布し、参考にさせる。その際、地域の為の政策を2つから3つの柱でまとめさせ、自分の考えをしっかりと述べるように指導する。また、政策の柱を考えさせる前には、現在の国政の問題点と課題、そして私たちが住んでいる西諸地域の現状をしっかりと講義し、今国民がどのようなことを求めているのかという視点から項目を捉えさせたいと考えている。



マニフェスト完成後には、全員に発表する機会を与え予備選挙を行う。その中から数人の生徒には次時の模擬選挙の立候補者となって、更に詳しい内容の発表をする。

■ マニフェストの作成

前時で選挙制度について学習し、それぞれマニフェストを作成した。授業の導入で現在の各政党のマニフェストを見せ、どのような政策の実施を考えているのかを全員で議論しながら確認した。そして、私が作成したものを提示し、生徒の前で演説をした。前授業時(プリント学習)にあまり

興味を示していなかった生徒も私の演説に顔をあげ真剣に聞く態度が見られた。その後、国の課題、そして私たちが住んでいる西諸地域の課題について新聞の記事を使って説明した。

作成の手順

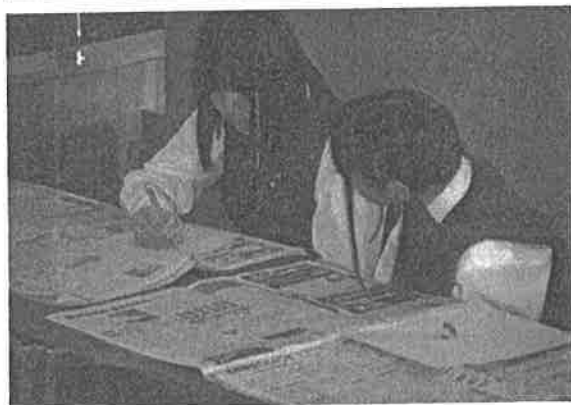
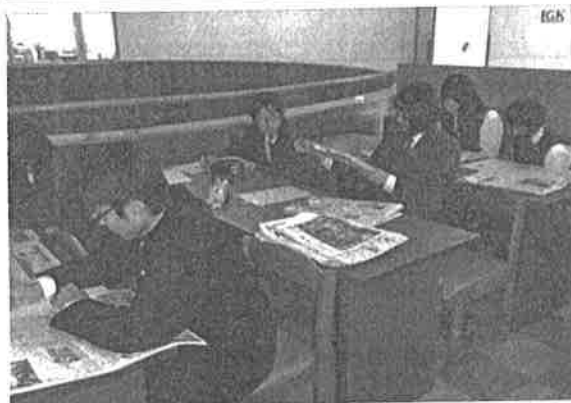
- ①政党名を決める
- ②調べ学習（図書館を利用）
- ③政策の柱を決める
- ④政策の具体的な内容を考える
- ⑤下書き
- ⑥生徒一人ひとりと政策内容の確認
- ⑦清書（完成）

以上のような流れで指導を進めた。生徒はまず何から始めればよいか、なかなか動くことができなかったが、ヒントを与えながら巡回指導を重ねるうちに各自新聞等で記事を見つけ、図書館内を回り何か材料はないかと探し始めた。それまで意欲の低い生徒も、友人と会話をしながら新聞を読む姿が見られた。次第に全生徒が真剣に取り組むようになり、互いに意見を交わしながら自分の政策を考えている様子が見られた。順次下書きまで終え、一人ひとりに内容の確認をしながら話を聞くと、自分が高校生としての立場から考えたものだけではなく、高校を卒業して自分が社会人となり、老後までを想定して政策を決定していた生徒もいた。その時やはり高校生でありながら、これからの日本の未来に不安を感じている生徒が多くいることを改めて感じた。

今回の単元を学習する前から政治・経済の授業では、導入で時事問題を取り上げている。生徒は少なくとも社会での出来事には興味を示しており、意見交換会などを通じて自分の考えをしっかりと述べることはできる。しかし、今回は自分で党を立ち上げ有権者に納得してもらい、得票することが目的であったため、いつも以上に周囲に自分

の考えを伝えたいという気持ちから戸惑いや時間を要することになった。政治に関心の薄い生徒も真剣に取り組み、全員のマニフェストが完成した。

〈マニフェスト作成の様子〉



全員のマニフェストが完成し、発表する機会を設けた。それぞれが自分のオリジナルの政党名を伝えたのち、現在自分がこの地域をどのようにしたいのかを有権者（他生徒）に動作を交えながら懸命に訴えていた。そしてその中から次時に行う模擬選挙の立候補者を選ぶ予備選挙を実施した。

以下が今回当選した立候補者のマニフェストである。

国民党

Peoples Party MANIFESTO

- 1. まずは消費税アップより無駄を削減!**
 - ・国・都道府県・地方自治体の削減（特別区・特別市の削減）
 - ・事業の削減・削減の推進
- 2. くらし・少子化対策!**
 - ・飯野高校生の電車・交通費の優待を無償化します。
 - ・小中学校の給食費を無償化します。
 - ・文部科学省の給食費の削減・削減を推進します。
- 3. 観光・企業誘致!**
 - ・県の観光・観光業の振興・振興の推進（観光・観光業の振興）
 - ・観光業の振興・観光業の振興の推進（観光業の振興）
- 4. スポーツ振興!**
 - ・小中学校の運動場の整備・整備の推進（小中学校の運動場の整備）
 - ・スポーツ施設を推進・推進の推進（スポーツ施設を推進）

佐党

- 1. 宮崎県民の観光客、観光客の増加を促すための施策を打ち出す**

観光客の増加を促すための施策を打ち出す。観光客の増加を促すための施策を打ち出す。観光客の増加を促すための施策を打ち出す。
- 2. 宮崎県産品の販売促進策を打ち出す**

宮崎県産品の販売促進策を打ち出す。宮崎県産品の販売促進策を打ち出す。宮崎県産品の販売促進策を打ち出す。
- 3. 新しい観光地を打ち出すための施策を打ち出す**

新しい観光地を打ち出すための施策を打ち出す。新しい観光地を打ち出すための施策を打ち出す。新しい観光地を打ち出すための施策を打ち出す。

大んば宮崎県

■飯野小中高連携事業「知の向上部会」社会科

飯野地区は小中高連携事業として、知の向上に向けて各教科が取り組んでいる。社会科部会においては、NIE を推進することで決定し、一つの新聞記事について、それぞれ小学生、中学生、高校生が意見を書いて交換するといった取り組みを行った。小学生は特に自分の意見に対して、中学生や高校生がどのような返答をしているのか大変楽しみにしている様子であった。この事業は今後も継続して取り組む予定である。

■成果と展望

小論文指導については、全職員、全校生徒が取り組むことで、生徒だけでなく私たち教員側が新聞に深く興味や関心を持つようになった。教員側が強く関心を持ち、教材研究に努めることでより具体的に、記事の内容を生徒に伝えることができる。生徒に関心を持たせるためには、まず私たちから始めなければならないと強く感じた。この取り組みが少しずつではあるが、進路に成果としてあらわれてきた。国公立大学への高い合格率、その他の進学・就職ともにここ数年100%の実績を残している。

公民科の授業においては、新聞記事を教材として使用したいと窮屈に考えていたが、無理に使用するのではなく、必要であれば自然と新聞記事に触れることになるということに気づいた。今回の授業研究においても、マニフェストを作成するという学習に、生徒は自然と図書館や新聞コーナーに足を運び、新聞記事などに目を通していった。このような活動が自然と新聞に目を向ける、または活用するといった学習になるのだと強く感じた。

これだけ情報が普及した時代で、新聞だけでもつ魅力を生徒に伝えながら、私自身も充実した指導に向け、今後も研鑽に励む覚悟である。

■「日本ニュース時事能力検定」の受検

日本ニュース時事能力検定協会主催のニュース時事能力検定3級を受検させた。

- 平成 24 年度 37 名受検、18 名合格
- 平成 25 年度① 41 名受検、30 名合格
- 平成 25 年度② 31 名受検、18 名合格

新聞に親しみ、自分の考えをもち、表現できる児童の育成

都城市立上長飯小学校
教諭 田中美充

1 はじめに

本校は平成24年度よりN I E教育実践推進校としての指定を受け2年目を迎えた。今年度は、昨年度の活動や児童の実態をふまえながら、児童自らの思いや考えを表現できる新聞づくりへの手立てや、新聞を積極的に活用した授業への取り組みを行うこととした。

本校児童（全校児童792人）の実態の一端を紹介すると、どの教科や活動においても国語辞典を準備・活用し、言葉への関心を高める実践を継続している。さらに読書に対する興味・関心も依然として高く、平成24年度の図書貸し出し総数は40384冊（一人当たり貸出冊数が50冊）、平成25年度は同総数43229冊（一人あたり同冊数55冊）と、毎年かなりの図書に親しんでいる。

一方、新聞やニュースに毎日ふれる児童は、高学年の児童については、一昨年度よりは増えてきているが限定的で、低・中学年児童についてはかなり少ない。その主な理由としては、記事については興味をそそるような写真や図・挿絵がある場合は読んだり眺めたりするが、難しい見出しや政治・外交となると高学年でさえも避けて読む傾向が多く見られる。しかし、教室や朝の会等で話題にのぼるような事件や出来事、芸能、スポーツについては関心が高く、新聞やニュースを見たとき反応する児童がみられ、教室が盛り上がる。

2 学校としての取組

9月から既読紙の宮崎日日新聞に加え、新たに全国紙を2紙ずつ配達・講読させていただいた。当日配達された新聞は、昨年度に引き続き、高学年の廊下に新聞コーナー（資料1）を設置し、国語辞典や漢和辞典、英語辞典といっしょに置いた。



【資料1 新聞コーナー】

さらに、これまでも行っていた新聞への投稿が各学級担任の奨励もあり、さらに積極的になり、新聞への投稿がふえ、採用されたものについては、数多く校長室前の掲示板に貼られた。

また、本年度は宮崎日日新聞の定期掲載中の「みんなの学校」にも選ばれ、実際の新聞作成に、原稿作成や掲載する校長先生の似顔絵や活動写真の選考にも関わることができたことは児童だけでなく、教職員、保護者にとっても大変意義深いことであった。（資料2）



【資料2 みんなの学校】

3 実践の概要

- (1) 情報に関心をもち、自らの思いや考えを表現できる新聞づくり
- (2) 新聞記事を活用した国語科の授業

4 具体的な取組

- (1) 情報に関心をもち、自らの思いや考えを表現できる新聞づくり
ア ニュースタイムの設定（平成24年度の継続活動として）高学年部を中心として、朝の会や社会、総合的な活動の時間等を



【資料3 キャリア教育】

活用して、できるだけ最近のニュースや情報を話題としてとりあげた。そこで、出来事や、出来事に関連した国名や都道府県名、さらに県内であれば市町村名、さらには関連した言葉や専門用語を答えさせることによってニュースや情報を身近に感じさせ、これからの成長に必要な言葉の習得にも役立たせることができ、キャリア教育にもつなげることができた。(資料3)

イ 自らの思いや考えを表現できる新聞づくり(高知新聞NIEを参考にしながら)第6学年では、児童自らの手による新聞づくりは夏休みと冬休みの2回は必ず行ってきた。しかし、自分の思いや考えは頭や心にあっても、それをなかなかうまく伝えることができていない。そこで指導の手立てはどうすればよいかについて、NIEのホームページ等を参考に考え、実物やHPを見せながら以下の点に留意し、指導を行った。

- ① 新聞を熟読し、そのスタイルについて学ぶ。
 - ・ リード(前文)を作る。リードは記事の要約であり、要旨でもある。国語の学習との関連を図る。
- ② 伝えたいことは何か、文章構成を構築する。
 - ・ 一番言いたいことから書き出し、読み手にとって何についての話なのか理解できるように説明や経緯を書き、さらに理由や背景の説明、場面や子といった情景描写、そして感想といった補足でまとめるような文章構成を考え、まとめる。
 - ・ 誰が読んでも分かるように、5W1Hを明確にし、難しい専門用語の転写ではなく、やさしい説明に変えて書く。
- ③ 分かりやすい見出しをつくり、読み手に伝えやすくする。
 - ・ 最も伝えたい内容を8~10文字程度でまとめて、体言止めにする。国語科の説明的文章の指導との関連を図る。
- ④ 何が大切か一目でわかるレイアウトを考える。
 - ・ 写真や挿絵、図等のサイズを確認し、パソコンで作成する場合は、写真等の資料でレイアウトの全体を調整するように心がける。総合的な学習の時間との関連を図る。

(2) 新聞記事を活用した授業の実践

新聞記事を活用した授業として、平成24年度はNIE実践授業として社会科を中心に実践したが、本年度は国語科を中心に実践を行った。その一例を紹介する。

ア 教科 小学校第6学年国語

イ 教材名 ヒロシマのうた

ウ ねらい

登場人物の相互関係や心情、情景についての描写を読み取り、作品の主題について考え、自分の感想や考えを表現することができる。

エ 新聞活用のポイント

本授業を実施する時点で、社会科では本教材の背景となる太平洋戦争と原爆について歴史事象としては学習しているが、当時の国民性や犠牲者の心情までは十分に指導していない。そのための資料として、当時の新聞記事や現在の関連する記事を用いて、ねらいに迫りたいと考えた。一方で、原爆や犠牲者の様子、当時の社会に関連した動画を見せることも考えたが、国語科としては挿絵にも意味があるとして、そのバックアップ資料として、歴史の一瞬をとらえた写真や文章にこだわって指導に生かそうと考えた。

オ 児童の実態

学年当初は、国語科学習に対する興味・関心も低く、語彙力、表現力ともに十分とはいえなかったが、国語辞典の活用や文図を利用したノート指導により向上してきた。

カ 実践内容

- 本時 第6時（指導計画 全8時間）
- 学習指導過程

① 前時までの学習をふり返る。

② 本時の学習について話し合う。

- 結末の場面を読み、ワイシャツにこめられたヒロ子の心情と汽車の情景について深く読み取るために、見通しを立てる。

【学習課題】

「汽車はするどい汽笛を鳴らして、上りにかかっていた」の一文にこめられた作者の思いを考えよう。

③ 本文を音読し、課題解決につながるキーワードを明らかにするとともに、解決する方法も自分なりに考える。

- 課題に即して本文から読み取ったことを文図に表し、グループ発表にそなえる。
- グループで考えを確かめ合い、必要に応じて書き加えたり、修正したりする。

④ 全体の場で話し合う。

【中心発問】

- ヒロ子はなぜ、きのこのような雲の刺繍をしたのか？
- 最後の一文「汽車は～かかっていた。」での作者の思いは？

【新聞の活用】

- 本教材導入時に、当時の戦争の様子を伝える記事を児童に紹介したところ、社会の教科書の表現とは違う生の国民の感情や、戦時中ならではの人と人との交流による日本人の温かさも知ることができた。

そのおかげで、本文から伝わる登場人物の心の葛藤や作者の思いが伝わりやすくなり、児童の考えや思いを明確にさせ、細かい表現にこだわった積極的な発言につながることもできた。

- 「汽車はするどい汽笛を鳴らして、上りにかかっていた。」この一文に込めた作者の思いをさらに明確にするために、一枚の坂を上ってくる汽車の写真（新聞の切り抜き写真）を掲示した。そうしたことで、一文から伝わる表現が写真によりさらに鮮明となり、作者の、ヒロ子を通して伝えたかった「希望」や「前進」、「力強く」、「負けない」、「引っ張っていく」・・・といった言葉が多く発表され、言葉のもつ力や表現の楽しさまでも味わわせることができた。

⑥ 本時の学習のまとめをする

- 作者は、人への感謝と戦争への憎しみとそれに負けない強い心、生き抜く決意を、ヒロ子を通して読み手に伝えようとしている。

⑦ 次時の学習への見通しをもつ。

○ 授業をおえて～成果と課題

〈成果〉

- ◇ 授業において新聞や情報を活用することは、児童の考えようとする意欲・関心をいっそう高め、さらに、児童の考えを助け、伸ばすことにつながる。また、語彙力や表現力が十分に身に付いていない児童にとっては、記事中の言葉や表現がヒントになったり、考え出すきっかけとなったりすることも多く見られ、大変効果的な補助資料になった。

〈課題〉

児童の発達段階を考慮すると、新聞記事をそのまま読み取るとは難しい。理解させるために見出しやリードに注目させるとともに、関連する写真や挿絵を併用することにより、児童にとってわかりやすく、魅力的な資料にアレンジする必要もある。

さらに新聞記事で使われている言葉や用語は、小学生にとっては難しいものもある。「わからない」とあきらめさせたり、避けさせたりするのではなく、よりいっそう国語辞典や漢字辞典を利用させ、理解させ、調べた言葉については日頃から意識して使わせることで言語能力の向上にもつなげていくことができると考える。今後も継続して実践していきたい。

5 おわりに

どの学級においても、「今日のニュースは？」と初めて聞くと、ほとんど反応がないか、スポーツや芸能に限っての発言が見られることが多い。そんなとき、一人でも「昨日・・・がありました」と新聞のトップを飾るような話題を発表してくれたときは、教師にとってチャンスである。

教師も最近のニュースを事前にリサーチしておき、その話題について、児童の興味をそそるような言葉や表現を駆使して説明するのである。児童は目を輝かせてそのニュースについて聞き入り質問もしてくる。教師も児童の態度にのせられてもっと教えたい、もっと知らせたいと躍動する。下学年の児童においては、身近なニュースでもよい。

ニュースについて話をした後、実際に「ほら今日の新聞に今のことが載ってるよ！」と付け加えると、次の休み時間には新聞に興味をもって見に行く児童が出てくる。毎日の繰り返しで、教科書だけでは学べない、広い知識と世界が広がるきっかけとなっていく。

今、キャリアの教育の充実もさげばれている中、このような教師の働きかけは児童にとって大切なものであると考える。今後は家庭との連携も図りながら、よりいっそう新聞や情報メディアを教育に活用していきたい。

平成25年度も本校のNIE推進のため、多くの新聞社や販売店の方々にご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

生徒が分かる喜びを味わえる指導法の工夫改善

宮崎市立本郷中学校
教諭 野口 貴史

I はじめに

本校は全校生徒660名（男子331名、女子329名）の大規模校である。生徒は明るく元気で人情味があり、概ね言われたことはきちんとできる集団である。生徒会活動や部活動が盛んで、主体的な委員会活動やボランティア活動が行われ、校内は活気に満ちており、学校の教育目標「心身ともに健康で、すぐれた知性と正しい判断力をもち、21世紀に生きる心豊かでたくましい生徒の育成」のもとに日々の学校生活を送っている。しかし、基本的な生活習慣や学習習慣が確立されていない生徒もおり、それらの生徒は基礎的・基本的な知識や技能が十分には習得されておらず、中学校卒業後の進路や将来に不安を抱えているといった現状も見られる。

そこで、授業においては、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるためにNIEを活用した授業など、生徒が授業に興味をもって取り組み、力をつけることができるよう授業の工夫・改善に取り組みたい。さらに、このような授業を繰り返し、生徒が分かる喜びを実感したり学ぶ意義を認識したりすることで学習意欲を高めていきたいと考える。

II 研究仮説

NIEを効果的に活用し、分かる喜びを味わえる基礎的な学習教材を活用した指導法の工夫改善に取り組めば、生徒は授業に興味をもって取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるであろう。

III 研究内容

- 1 新聞を活用した授業の開発
- 2 知識・技能の活用をもとにした思考力・判断力・表現力等の指導法の研究
- 3 研究授業の実施

IV 研究の実際

- 1 新聞活用によって生徒に身に付けさせたい力（活用する力：思考力・判断力・表現力等）の設定
この研究を通して、次の四つの力を付けたいと考えた。

- 身近な情報源としての新聞に興味をもち、新聞に親しむ習慣をつける。（関心・意欲・態度）
- 新聞記事を集めたり、記事に関するスピーチを行ったりすることにより、社会に目を向け、自分なりの考えをもつ力を育てる。（思考力）
- 新聞の教材化を図り、授業の中で活用することで、読み取った資料を基に自分の見方・考え方を広げたり、深めたりする力を育てる。（判断力）
- 新聞から表現方法を学び、学習のまとめ、発信の手段として新聞作りを取り入れることにより、必要な情報を収集・選択し、文章で表現する力を育てる。（表現力）

本校生徒に、「あなたは、新聞を読みますか。」という調査を実施した。【表1】「新聞を読む」「時々読む」生徒は約44%であった。「新聞を読まない」と答えた生徒は約56%で、読まない理由としては「関心がない」と答えた生徒が51%を占めた。

【表1】

あなたは新聞を読みますか。	毎日読む (3%)	時々読む (41%)	読まない (56%)
どの記事を読みますか。	政治・経済面 (27%)	文化面 (39%)	スポーツ (73%)
なぜ新聞を読まないのですか。	時間がない (27%)	関心がない (51%)	その他 (34%)

3 具体的な取組

(1) 文化委員会の取組

2学期より、文化委員会の活動にNIE係を新たに設け、NIEコーナーの充実を目標に活動している。図書室の蔵書の中から、「新聞」や「ニュース」に関する本を展示している。現在は「阪神淡路大震災」「東日本大震災」の写真集を展示している。その時々話題のものなどを随時展示することで、生徒がニュースに対して興味関心を持つように、工夫している。

「NIEコーナー」(図書)

図書室前の廊下に、NIEの掲示コーナーがあり、その近くにNIE関連の図書を展示するコーナーがある。

本は、随時入れ替えている。



(2) 各教科における取組

① 新聞を活用した授業の指導案

第1学年4組 国語科学習指導案

平成25年11月27日(水) 第2校時

指導者 教諭 荒武 郁美

1 単元名(題材名) 論点をとらえる(「話題をとらえて話し合おう」)

2 目標

◎ 事実と意見をとらえ、根拠を明確にして書き、発表する。(話す・聞く能力 書く能力)

3 本時の目標

○ 新聞の投稿欄に掲載された、読者の問題提起について考える。(国語への関心・意欲・態度)

○ 記事に対する自分の考えを、意見と根拠を明確にして書き発表する。(書く能力)(話す能力)

4 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点・評価（評価方法） （◎新聞・ICT機器活用場面）	資料・準備
導入	1 新聞記事や投稿欄に関心をもち、本時の学習課題をつかむ。	○「学習課題カード」を利用し、本時の課題を明示する。	学習課題カード
	2 新聞の投稿内容を聞き、問題提起を理解する。 根拠を明確にした、説得力のある意見文を書こう。	◎ 投稿者の困り感や場面が浮かぶように記事を範読する。（観察）	新聞記事 （投稿欄）
展開	3 新聞の投稿意見に対する自分の考えをもち、整理して書く。 ○ ワークシートの手順に従って、書く構成内容を、理解する。 ○ 結論を明確にし、その根拠・問題点・解決法についても考える。	○ 意見と根拠をはっきり分けて書くことを、理解させる。（観察） ○ ワークシートの欄に沿って、説得力のある根拠と構成ができているか、確認する。（観察） ○ 相手の意見文のキーワードを探することで、少しでもその良さを見つけさせる。	ワークシート
	4 グループごとに、互いの意見文を評価する。 ○ 結論・根拠・解決法について、評価していく楽しさを知る。 ○ 自分の意見と違う、他人の視点や考え方に気づく。 ○ より高い見識や根拠をもった確かな説得力ある意見文を読む。	○ 各自の色ペンを持って記入させることで、自分の評価に責任を持たせる。（ワークシート） ○ 各グループで代表を決めることで、客観的な読みの視点を持たせる。	色ペン ワークシート
終末	5 各グループの代表による意見文発表を聞く。 ○ 意見と根拠とを、明確に分けて聞き取る。 ○ 他人のものの考え方や、より説得力のある文章に、気づく。	○ 頭にワークシートの構成が浮かぶような意識で、聞く。 ○ 自分と同じ結論でも、その根拠は違う場合があることに気づかせ、視野を広げる。	

（3）各学年における取組

① 1学年の取組

1学年では、全クラス共通の取組として各学級に「NIEのコーナー」を設置し掲示を行った。（写真1「NIEコーナー」）また1年は国語科で全クラス新聞記事の投稿欄を教材にして、「高齢化社会とネット社会」をテーマとしたバズセッションと意見文の作文、ディベートを実施した。（写真2「バズセッション」）



写真1 「NIEコーナー」の設置

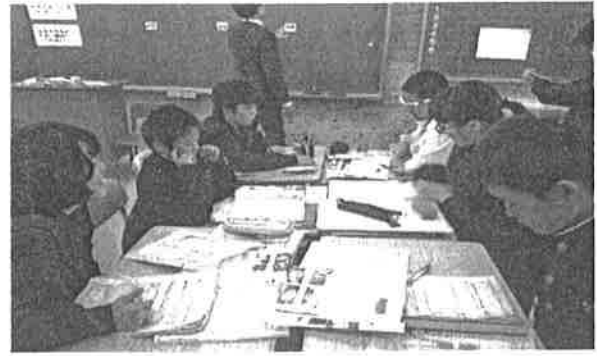


写真2 「国語科におけるバズセッション」

② 2学年の取組

2学年では、全クラス共通の取組として各学級に「NIEのコーナー」を設置し掲示を行った。また朝自習の時間を活用し、朝日新聞の「天声人語」宮崎日日新聞の「くろしお」などの記事を視写する時間を設定した。(写真3「新聞コラムの視写」) また委員会活動の中に学級新聞の係を作り、新聞を発行するクラスも見られた。自主的な活動として学級の廊下に毎日新聞を掲示する生徒も見られた。(写真4「オリジナルの学級新聞」)



写真3 「新聞コラムの視写」



写真4 「オリジナルの学級新聞コーナー」

③ 3学年の取組

3学年では、全クラス共通の取組として各学級に「NIEのコーナー」を設置し掲示を行った。また朝自習の時間を活用し、朝日新聞の「天声人語」宮崎日日新聞の「くろしお」などの記事を視写する時間を設定した。(写真5) また全クラスに毎月のニュースをまとめた月刊誌を配布し、社会問題に対する関心・意欲を高めた。各学級ではNIEコーナーにおいて、足をとめて読む風景が見られたり、教室に置いてある新聞ダイジェスト誌にも、自然と関心を向けている様子が見られた。さまざまな場面で少しずつ新聞を取り入れることで、生徒にとっても新聞が身近なものとなった。



写真5 「視写で使用した原稿」



写真6 「新聞ダイジェスト誌」

V 成果と課題

1 成果

- N I E活用の研究にあたり、役割を分担したことにより、組織的に活動することができた。
- 新聞記事を活用した各学年の取組によって、生徒が新聞記事に関心を示すようになった。
- 授業の中で、新聞記事を活用したことにより、社会の時事問題に関心を持つようになった。
- 英語科において、宮日こども新聞（Let 's えいGO）を活用し、話題の記事を取り上げ、生徒の興味関心をひくことができた。
- 国語科において、教科書の「話す・聞く」教材（バズ・セッション）のテーマに新聞投稿欄の記事を取り入れることができて、授業の内容が活性化した。
- 数学科において、新聞記事を利用した「標本調査」をテーマにした授業を行ったが、授業を通しての発見がそれぞれにあり、興味深く課題に取り組んでいた。

2 課題

- 各学年の取組として新聞記事の視写をしているが、内容まで理解しながら視写している生徒は少ないのが現状である。
- N I Eを活用することにより、今後はさらに読む力を育てることや社会情勢を把握させることに重点を置く必要がある。

社会問題に関心を持ち、意見を確立し、発信する生徒の育成

五ヶ瀬中等教育学校
教諭 村 社 文

1 はじめに

本校には学校の図書館と、男女それぞれの寮に6紙の新聞が置かれており、生徒にとって新聞は身近な存在である。また、2013年のNIE独自認定校に本校が指定されたことにより、この1年間、様々なNIEの取り組みを行ってきた。NIEで身に付けることのできる力と、国語科の目指す教育目標は重なる部分が多い。そのためこの1年間、国語の授業の中で新聞を取り入れることを意識して授業を行ってきた。本校は平成26年度からスーパー・グローバル・ハイスクールの認定校に選定され、グローバル教育を意識した活動を多々行っている。NIEは、世界各国の社会情勢に目を向け、幅広い教養を身に付け、社会問題に対して自分なりの意見を持ち、他者と共有する力を育成するグローバル教育にもつながる。昨年度1年間の取り組みをさらに発展させ、今年度はグローバル教育の一環としてのNIEを実施していくことを目標としたい。

2 昨年度の学校全体としての取り組み

- 中学1年生(1学年) 国語の授業： 天声人語の書写、意見文まとめ
- 高校1年生(4学年) SHR : 新聞のスクラップ、記事に対する意見発表
- 高校2年生(5学年) 学級経営 : 記事をスクラップして教室に掲示
- 総合的な学習の時間 : 「フォレストピア学習」森林文化Iコース
新聞記事を使った調べ学習
- 教養講座 文芸クラブ : 新聞の読み比べ、新聞社に文芸作品を投稿

3 昨年度の国語総合の授業で行った取り組み

第18回NIE全国大会に参加した際に学んだ、NIEの基本姿勢である「NIEは手段」、「生徒主体の取り組みである」、「継続し、習慣化させる」ということを意識し、高校1年生の国語総合の時間に、新聞を取り入れた授業を行った。私がNIEを通して生徒に身につけさせたいと考えた力は、以下の5点である。

- ① 幅広い時事問題を知る。
- ② 自分の考えを持ち、他者の考えを受容する力を身につける。
- ③ 討論の方法を知る。
- ④ 小論文(意見文)の書き方を知る。
- ⑤ 小論文(意見文)の評価基準を知る。

新聞記事のスクラップ

4 実践内容

① 新聞記事のスクラップ

(読むこと、書くこと)

週末課題に新聞記事のスクラップを課し、授業の導入で何名かの興味深い新聞記事と記事に対する生徒のコメントを取り上げた。お互いの記事を見せ合い、それぞれの興味を持っている分野や社会問題に関する



る知識を共有し、これからの授業で行う討論の議題を決定させた。

② 記事に関する討論

(話すこと・聞くこと)

討論のテーマは、生徒にアンケートを取り、要望の多かった順に3点選び、討論させた。生徒へのアンケートの結果、討論のテーマの要望は、「地域振興」、「教育」、「国際交渉」の分野に関するものが多かった。生徒からの要望もあり、討論に向けて新聞だけでは手に入らない情報を、インターネットを使って収集する時間を事前に設けた。その後計3回の討論を行った。

i 地域振興分野

「非公認ゆるキャラの是非について」

討論の手法を学ぶことを目標とし、プレ討論という形で行った。8つの班を作成し、それぞれの班の中で賛成、反対の立場を作り、討論の型(立論、尋問、反駁)に沿って意見を述べさせた。

ii 教育分野

「教育の情報化の是非について

～ノート派か、タブレット派か～

iii 国際交渉に関する分野

「日本のTPP交渉の参加の是非について」

ii、iiiとも、8つの班を討論班、評価班と、大きく2つに分け、討論班のうち、肯定派を2班、否定派を2班、評価班の4班には討論の評価をさせた。3回目の討論は、討論班と評価班の立場を変えて行った。

③ 討論に関する内容の意見文の作成・宮崎

日日新聞社員との協働授業 (書くこと)

宮崎日日新聞社の小川清一郎さんにアドバイスをいただきながら、意見文のテーマを「TPP」に決定した。「TPP」に関する意見文200字を30分で書かせ、お互いの意見文を読み合い、生徒にクラスで優れている意見文を班で話し合い、選ばせた。同じ意見文を小川さん

討論① 討論の流れ、手法を知る (班でプレ討論)
 テーマ: 地域振興
 「非公認ゆるキャラの是非について」



討論② A班B班[肯定派] VS C班D班[否定派]
 テーマ: 教育
 「教育の情報化の是非について
 ～ノート派か、タブレット派か～」

評価班



否定派

①立論



討論③ E班F班[肯定派] VS G班H班[否定派]

テーマ: 国際交渉
 「日本のTPP交渉の参加の是非について」



にも添削していただき、指導をいただいた。

- i 教諭、宮崎日日新聞記者による、小論文(意見文) の評価項目についての指導
(国語の特質に関する事項)
- ii 意見文の生徒同士の班活動による相互採点、宮崎日日新聞記者による採点
(読むこと、話すこと・聞くこと、書くこと)
- iii 新聞記事の読み方、新聞記者という仕事に関してのキャリア教育を兼ねた講話
(国語の特質に関する事項)

意見文の相互評価



以上のことを約 10 時間、国語総合の授業の中で行ってきた。

5 生徒の感想

新聞記事のスクラップ

- 他の人の記事を読むこともできたので自分の知らないことを知ることができた。
- 好きな新聞ができたり、ひとつの時事問題について読み比べたりなど、新聞のすごさや面白さが分かってきた。
- 自分の興味のあるものを最初に切り抜いていたが、その内容によってどんな影響があるのかが気になり、他の記事もよく見るようになった。

討論

- 討論の授業が一番面白かった。ひとつのニュースについて、討論をすることで知識を深めることができた。
- 相手の反論を予想しながらの資料集めや発言については新鮮でよかった。

意見文の作成

- 書くまでは多く感じた 200 字が、書き始めると少ないことに気づいた。
- 他の人の意見文を読めるのは、書き方とか意見とかも知ることができて面白かった。

宮日記者の出前授業

- (意見文を書いた後に受けた宮日記者の講義を)自分の意見文を思い出しながら受けることで、自分の注意が向かなかったところの話に、納得することが多かった。
- 実際に文章を書く仕事をしている方から、文章の書き方のご指導をいただくのはめったにないことなのでよかった。

6 成果と課題

成果として、生徒に新聞に触れる機会を多く持たせたことにより、社会問題に関心を持つ生徒が増えたことが挙げられる。特に「T P P」に関する討論の中で、相手を論破するための知識を得ようと、懸命に調べ学習をしている生徒の姿が印象に残っている。社会の動きに対して、自分なりの意見を持ち、相手に伝えようとする意欲の高まりが生徒の中に見られた。

課題としては、授業の計画において不十分なところがあったということである。私がN I Eに携わるのが初めてであったため、手探りの状態でN I Eを授業に取り入れていった。そのため、N I Eを取り入れる時期や、時事問題の内容など、工夫を凝らせる部分があったことに授業後に気付くことも多かった。また、今回は高校1年生の国語総合の時間を中心にN I Eを取り入れたが、国語だけでなく、他教科や他の教育活動の中でも行えるように企画するなど、全体的なN I Eの取り組みが不足していた。特に今年度は、本校の総合的な学習の時間である、グローバルフォレストピア学習の中で、N I Eを取り入れた授業を企画できればと考えている。本校は今年度、N I E実践指定校に指定されているということもあり、今後は学校全体の取り組みとして活動を広げていけるように尽力したい。

7 おわりに

新聞のスクラップの課題として、「遺骨をダイヤモンドにする」という事業の広告を切り抜き、「倫理的に問題があるのではないか」という意見を書いてきた生徒がいた。授業で記事について取り上げる際に、「遺族の心理」、「医療」、「経済」、「倫理」など、様々な観点からこの記事について話をする機会ができたとともに、新聞記事は広告欄も教材となりうるのだということを実感し、教材としての新聞の可能性を感じた。今後も、新聞記事の様々な活用法を全国の事例を通して学び、生徒の表現力向上に努めていきたい。

8 参考文献

- ◇ 高等学校学習指導要領国語編
- ◇ 「N I E 教育に新聞を 実践指定校実践例 2012 年度」
 - 「新聞を小論文指導に生かそう」 (鹿児島県立大川高等学校3年)
 - 「新聞記事を使ってスクラップを作ろう」 (滋賀県立八幡工業高等学校3年)
 - 「新聞記事を活用したディベートの取り組み」 (北海道富良野緑峰高等学校3年)
 - 「新聞を使って書く力を高める～国語表現の中に新聞を～」新聞記事で意見文を書く (兵庫県立家島高等学校2、3年生)
- ◇ 「平成24年度 宮崎県N I E実践報告書」より
 - 「N I Eを取り入れたクラス活動と探究活動」 (宮崎県立宮崎大宮高等学校1、2年)

2013年度「NIE 実践報告書」

言語活動の充実、言語力を高めるために

宮崎県立都城さくら聴覚支援学校
高等部 国語科 教諭 海野千尋

1. はじめに

本校は、幼稚部、小学部、中学部、高等部の4学部から構成されている。聴覚に障がいがある幼児、児童、生徒にとって、受容する情報が制限されやすく、言葉の習得、言語概念の形成が困難になりやすい。そのため、コミュニケーション能力の向上が妨げられ、社会生活に支障をきたす場面も少なくない。そこで、言語活動を充実させ、言語力を高める授業を工夫することが、コミュニケーション能力を向上させることにつながると考え、学校全体で取り組んでいる研究テーマである。実践として、基礎的な言語力を育てるために、幼稚部から高等部まで、言語活動、言語力を高める授業を通して、思考、感性、情緒の基盤となる言語力の形成を目標に力を入れている。

今回の指定を受け、主に高等部の国語科を中心に、学校全体の研究テーマである言語活動を充実させ、言語力を高める授業を、NIEを通して、更に意識して取り組むことにした。

新聞は、視覚から入る最も信頼できる安定した情報なので、本校の生徒たちの言語力を高めるうえで、活用に大変適している教材である。生徒たちの普段の主なコミュニケーション手段は、手話が中心となっているが、卒業後の社会生活では、多くの人と様々な方法で、コミュニケーションをとらなければならない。将来、生徒たちが豊かな社会生活を送るためにも、豊かな言語力は必須である。新聞でより多くの言葉に接し、語彙力・表現力が育ち、豊かな言語力が形成され、今後のより多くの経験につながっていくことを目標として、NIE実践に取り組んだ。

2. 学校としての取り組み

高等部 5クラス 生徒数16名（1学年 5名 2学年 5名 3学年 6名）

(1) 新聞を置いた場所・・・生徒が利用するグループ学習室（多目的教室）

グループ学習の後方の専用ボックス置き、その日の新聞を入れ、自由に読めるようにした。当日の新聞以外は自由に切り抜いて、新聞要約の課題に使用してもよいことにした。広く関心を持てるように、話題の記事については、授業等で紹介するようにした。

(2) NIE 課題

本校では、2006年から国語科の課題として、週に3回、新聞を要約し、感想を書くNIE課題を提出させている。興味を持った新聞記事を切り抜き、わからない語句を調べ、5W1Hでまとめ、最後に要約、感想を書くという課題である。近年、新聞を購読している家庭の生徒が、減少し、寄宿舎生徒もいるので、入学時は、日ごろ新聞にあまり馴染んでいないが、徐々に新聞を読むことに慣れていくようである。要約、感想については、個人差があるため、多角的なものごとを捉え、視野を広げていけるように支援している。また、定期的に課題を掲示し、他の生徒の意見を読むことで、興味、関心が広がるようにしている。



3. 実践内容

(1) 1学期の目標、取り組み

「新聞を読むことに慣れ、様々な分野に広く関心をもつ」

新聞を読むことに慣れていない生徒が多いので、毎日、新聞に触れ、自分の関心のある記事を探したり、その日のニュースについて、意見を出し合ったりした。まず、新聞を読むことに抵抗をなくし、馴染むようにした。新聞を読む際に、使用されている語句の読み、意味を確認させた。健聴者は、普段耳にする言葉の読みや意味を日々の経験を通して使用し、獲得する機会が多いが、本校の生徒たちにとって、言葉は、意識的に読み、意味を確認し、日常生活でも意識することで、獲得していかなければならないものである。特に読みに関しては、聴覚からの情報が難しく、苦手な分野である。そこで、漢字に振り仮名があり、記事についても簡潔にわかりやすい「子ども新聞」と普通の新聞を両方活用しながら、新聞に親しませるようにした。授業の最初に毎回漢字の小テストを行うが、教師がそのチェックをしている間に、生徒たちは、新聞記事を読むようにした。最初は、あまり集中して読む姿勢は、見られなかったが、記事の内容について、説明を加え、意見を求めると、徐々に関心を持ち、熱心を読むようになった。

(例) 話題にして、考えた記事

・米国の人気女優、アンジェリーナ・ジョリーさんが乳がん予防のため、乳房切除したことについてどう思うか、賛否両論の意見を考えることに取り組んだ。

→高額な医療費の問題、手術によるリスク、将来的に予防医学の果たす役割などについて考察した。

(2) 2学期の目標、取り組み

「記事について、深く考え、自分の意見を表現する」

新聞を読むことにも慣れてきたので、新聞の紙面の構成を学習し、関心のある記事を切り抜き、クラスで新聞を作成した。また、その内容に関して、自分の意見、感想を表現することに取り組んだ。更に、二学期の校内の大きな行事である文化祭の記事を作成し、コラムを書くことで、身近な話題から考えを深めることに取り組んだ。

新聞構成では、新聞紙面の構成内容、コラム、社説、紙面が右利き用であることなどに関心を持たせ、見出し、リード（前文）、本文などの基礎的な新聞用語も説明した。

実際に切り抜いた記事にも自分の意見、記事の補足等も加えることで記事について、一元的な感想に終わらず、本質的な問題を見つけ、発展的に考えるステップとした。記事を選択する際には、世界のニュースから地元の話題まで広く記事を集め、偏らない紙面作りを目指した。

(例1) 複数のニュースの関連を考えてみる。

フィリピン台風について→なぜ台風が大型化しているか？

という問題に着目し、地球温暖化との関係、COP19（国連の気候変動枠組み条約締約国会議）などの記事とも合わせて、関連づけ考えることに取り組んだ。

(例2) 地域（宮崎県や都城市、本校）の身近なニュースについて考えることで、広く社会の問題につなげてみる。

① チキン南蛮が国語辞典に取り上げられたこと

→宮崎から「食」を通して全国に発信できることの意味を考え、宮崎独自の方法で、宮崎ならで



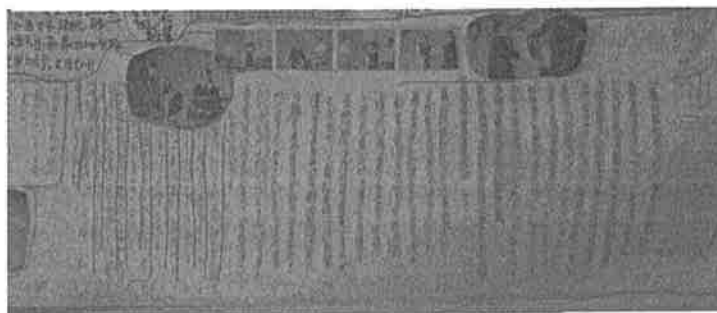
はのものを伝え、全国に知名度を上げることが、地方の発展になることにつなげることができた。

② 都城大丸跡地に図書館ができること

→老舗デパートの閉鎖のダメージからの脱却、地元の文化の活性化などについて考え、地方の抱える問題につなげることができた。

③ 本校文化祭について、コラムを書くこと

→「男女の価値観」をテーマにした高等部の劇に参加した経験から、自分なりの意見や感想を表現することに取り組んだ。お互いの価値観の違いについて理解し認めること、相手の気持ちを想像することなどが大切だと感じ、自分の言葉を使って表現することにつなげることができた。



(3) 3学期の目標、取り組み

「新聞を通して、多角的なものの見方、総合的な視野を持ち、自分の意見を他人に伝える。」

新聞記事を通して情報を伝える立場、読み手として受け取る立場でどのような姿勢が大切かを確認した。弁論大会での発表資料や検証資料として新聞を活用し、自分の意見を発表し、他人に伝える表現を工夫する。一年間のまとめとして、年間ニュースを振り返り、それぞれの内容に関して、深く考え、意見を出し合う。

(例1) 小保方晴子氏のSTAP細胞研究データ捏造疑惑、佐村河内守氏の別人作曲事件の記事を通して、初期の絶賛した記事と疑惑や事実が発覚した記事を比べ、新聞の役割、本質などについて、改めて確認した。→新聞は素晴らしいニュースとして伝え、我々読み手も手放しで絶賛した二人の記事について、考証した。真実を伝え、検証していくという新聞社の姿勢と、真実かどうかを疑い、見極める力を読者も身につけていく必要があることの重要性を認識した。そのためにも、新聞の記事の内容が真実かどうか、深く多角的に読み、その背景、今後の展望等まで広く考えることができる力を養うためには、日ごろから新聞を丁寧に読む習慣を身につけることや、出来れば、複数の新聞記事に目を通すことなどが大切であることを確認した。特に、聴覚障がいに関わる佐村河内氏の記事については、高い関心を持ち、批評、検証する姿勢が見られた。

(例2) 弁論大会では、テーマに沿った資料、根拠の提示等に新聞を活用し、自分の意見をまとめ、多くの人に伝わる表現を工夫することに取り組んだ。

- ① カメレオン俳優として役に合わせて個性を作る俳優として紹介された「堺雅人」さんの文化面の記事をきっかけに、「俳優堺雅人の魅力」について、更に分析を加え、自分の意見をまとめ、発表した。(1年女子)
- ② 2020年の東京オリンピック開催決定について、50年前の東京オリンピックが戦後の復興を掲げて開催したこと、今度は、震災復興を目標に掲げて、決定されたことに関心を持ち、決定までの経緯を新聞記事を活用して調べた。更に、パラリンピック、デフリンピックなどについても紹介し、オリンピックやスポーツの意義を意見として発表した。(1年男子)
- ③「ゆるキャラ」ブームを取り扱った記事を集め、「ゆるキャラ」の由来、役割、課題等を検証し、障がいを広く理解してもらうための「ゆるキャラ」を提案する意見を発表した。(2年女子)

(例3) 一年間の新聞学習のまとめとして、関心を持ったニュースを記事としてまとめ、新聞を作成した。

→2学期に作成した切り抜き新聞の構成を参考に、パソコンで新聞のレイアウトを行い、一年間のニュースを振り返り、新聞作成に取り組んだ。事件や事故については、今後に活かすための教訓としての考察を加えること、紙面の中に心が和む話題を入れること、自分が関心ある内容を他人にも興味を持ってもらえるような紙面作りを意識し、工夫させた。作成後は、校内に掲示して、意見や感想をもらい、多数の人に広く読んでもらう楽しみも味わうことができた。



3 実践前後の変化、実践の感想、今後の課題

① 実践前後の変化

以前から、NIE課題として、新聞の要約、感想に取り組んでいたが、日ごろから、意識的に新聞を丁寧に深く読む姿勢や記事の本質まで考えるという域までには、なかなか到達できなかった。生徒たちにも形式的に取り組み、課題をこなしているという態度が見え、指導方法等について、見直していく必要を感じていた時期であったので、数社の新聞を購読できるという機会を最大限に活用していきたいと思い、NIE実践に取り組んだ。毎回、授業で新聞記事を取り上げたことで、これまで新聞を読む習慣がなかった生徒も、新聞を毎日読むことへの抵抗が少なくなり、ニュースに関心を持ち、会話の中で話題となる場面も見られるようになった。また、新聞記事その日の一つの

ニュースに対する関心が、そこで終わるのではなく、また、次に新しい情報を知りたいという意欲や、他の記事と関連付けて、考えたりする姿勢が見られるようになった。特に、新聞記事を要約し、感想をまとめるNIE課題については、選択する記事の内容の分野が広がり、表面的な個人の感想で終わらずに、今後の展望などまで意識して考えることができるようになった。

② 実践の感想

一年間のNIE実践を通して、生徒たちの新聞と関わる姿勢に変化が見られたと思う。まず、毎日、新聞に目を通すという活動に慣れ、新しい情報を知りたいという意欲が感じられるようになった。当初、スポーツやテレビ欄だけしか興味がなかった生徒も、地域の話から世界のニュース、経済、政治、スポーツなどの幅広い分野のニュースを整理して、他の生徒と読むことで、関心を深め、少しずつ視野を広げることができたように思う。また、相手の意見を聞いて、自分の考えを正確に伝えるという活動は、コミュニケーション能力を高める上で、大いに役立つ経験となった。本校の生徒たちにとって、語彙を増やし、言語力を高め、コミュニケーション能力を育成していくことが、常に

大変重要な教育活動である。NIE実践を通して、新聞に使用されている難しい語句の読みや意味を、記事を通して確認することで、語彙を増やしていくことに取り組むことができた。健聴者は、実生活の中で頻繁に使用される言葉の多くを、聴覚からの情報として、読みや意味を理解し、自分の言葉として身につけていくが、本校の生徒は、聴覚からの情報獲得が難しいために、視覚からの情報である新聞の文章や語句は、大変有効な情報源であった。更に内容に関心を持って読み、言葉を意



(2014年3月27日付 宮崎日日新聞)

識することで、自分の言葉として使用できるようになり、日々の言語活動に活かされていったと思う。日々変化する現代社会の状況の中で、新しい時事用語も使われている新聞に触れ、意識して、新しい言葉を獲得し、語彙を増やし、言語力を育む、大変よい機会となった。また、ニュースと自分たちの日常生活と関連付けたり、お互いの意見を交換したりという場面が、日常会話や授業でも見られるようになった。新聞作成に取り組んだことで、修学旅行などの学校行事、校内のニュースを新聞の形式でまとめ、簡潔にわかりやすく伝え、関心を持って読んでもらうという表現方法を日常的に活用することができるようになった。新聞を読むこと、自分の意見をまとめ、新聞を作成する活動がより身近なものとなり、言語活動の充実、活性化につながり、大変意義ある実践ができたと感じている。

③ 今後の課題

高等部は、卒業後の進路を見据えて、社会生活に必要な力を育成していかなければならない。特に聴覚に障がいがある場合、コミュニケーション能力は、最も必要な力といえる。実社会では、様々なコミュニケーション手段で、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が求められる。それは、他者の考えや立場をしっかりとした言葉で理解し、自分の考えを正確にしっかりとした言葉で伝え、望ましい人間関係を築いていこうとする姿勢である。言語力を高め、幅広い言語活動を行った今回のNIE実践は、コミュニケーション能力を高めることにつながったと思うが、卒業後、社会の一員として、社会活動に参画できる力としては、まだまだ未熟で、十分とはいえない。豊かな言語力が、今後の豊かな社会生活、自己実現にもつながっていくことを、日々の生活で生徒自身が自覚できるように支援していきたいと思う。そのためにも、今回の実践を国語の授業や課題として終わるのではなく、新聞を日常的に活用し、生徒自身が自らの言語力を高め、質の高い言語活動を行おうとする態度が身につくように、継続的に取り組んでいかなければならないと考えている。

「新聞を読む」活動から「論文」まで

－記事を自分の問題として捉える－

日向学院 中高等学校
教諭 黒岩 充 秀

昨年の活動から1年が経過し、3年生となった今、「自分の考えを書く」という活動に入っている。各新聞社の同様の記事での扱いの対比に目を向けさせ「他の意見を知る」という点と各新聞社の方針、地域性があるが、読み比べをすることによって「社会を知る」という目標設定での活動になってきている。

「感想文」、「意見文」を書いてきた昨年までと違って、テーマを見つけてそれに沿った「自分の考え」を「論理的」に書いてみるということである。新聞閲読習慣が維持されている状況においてさらに拡大を望みながら、この3年生という時期になり、「論文を書く」という一歩踏み込んだ段階に進もうとしている。

さて、生徒が記事内容に対して関心を持っているということは、その生徒の成長を表している。見出しから内容に目を転じながら「どういうこと」という疑問を抱くことからこの目標のすべての出発点である。

1、考える

「いつ、どこで・・・」という記事を読む姿勢は低学年の段階で指導されてきており、記事をしっかり読むことについてはある程度の定着の高さや均質性を感じる。しかしながら、では「この記事から何を考えますか」という投げかけに対する反応には若干の戸惑いが生徒の中に見られる。書かれている記事を読むことが出来た段階での「感想」は伝えられるが、自分としてこの記事からどのようなことを考えるか、ということになると発言が止んでしまうのがこれまでであった。

そこで、同じ記事掲載の新聞を数社読ませて「対比」いわゆる「比べ読み」をさせて、次に似ているところ探す「類比」をさせてみた。つまり、記事の中でどこがどのように違って、どこがどのように似通っているのかを考えさせることにした。この「対比」と「類比」は書かれている記

事の「根拠」であり、この作業がなされることで生徒の中で「分析」的読み取りができていていると考え、その後「私の選んだテーマ」というプリントを配布してみた。では、生徒の提出してきた「私の選んだテーマ」のいくつかを挙げてみる。

「少子化」「地方分権」

「食糧問題」「成人年齢引き下げ」

「省エネ対策」「制服はいるか」

「携帯電話」「生活習慣病」



書く準備の点検を促し、自分の言いたいこと（主張）は決まったか、その内容を説明できるか、わかってもらえるための事例を準備したか、反対意見を予想しているか、自分の主張に対する反対の考えに対抗（反対）できるか、などを指摘してみた。

2、「書く」作業へ

「起承転結」をはっきりさせて書きなさいということを指導されてはきているものの、いざ、書くこうするとなかなか進まないわたしでもあった、生徒にいま、同様のことを指導をしているが、自分を振り返ってみたとき、「私の選んだテーマ」に関しての「知識」が十分でなかったということ、批判的な読みができていなかったという問題点があった。書く準備の中の点検内容に関して認識の甘さがあった。そこで、新聞を読む際にも辞書を

傍らにおいて読むことの必要性、自分の考えを主張するにふさわしい資料を収集することの大切さを指摘した。また、パソコンでの検索も薦めた。前回「語彙力」ということを問題点として挙げておいたが、あらゆる面での一般的知識不足が今回の指導過程においては否めない。その原因にかなりの速さをもって変容していく生徒を取り巻く環境は、生活であったり、言語であったり、感情であったりしているのではないだろうか。



3、「N I E活動」が生徒にもたらしたもの。

活動に参加したことで、生徒が新聞を読むことを通して話題が豊かになったことがうかがえる。清書に目を通す部分は違っているが、男子のスポーツ面が、女子の生活面が、社会面に移って行った。どの面も興味を示すことでは生徒にとって大切な記事であるが、関心事が明らかに変化してきている。学齢からすると当たり前のことのように思うかもしれないが、パソコンにない社会性、詳細な記述からくる信頼性などを通して、思考を深めるために欠かせないものになっている。読解力の養成、表現力・語彙力の向上は記事の種類、文章の特徴、写真、投稿などによるところが大きい。いかに自分の考えを明確にしていくか、他人に自分の考えをしっかりと伝えられるか、このことは今後大きな課題となる。曖昧な言語活動（読む、書く、話す）から生まれるさまざまな社会的不安などがますます懸念される。

そういう点からも文章を正確に読み、そこから考え、他の考えを知ることで社会を理解する手立てとして、新聞を手にすることは重要と考える。



1、私の選んだテーマ

2、論述してみたいこと。(構想を浮かべながら)

3、主張を支えるためには、どのような資料が必要か。

4、資料の収集計画を立てる。

どのような記事に頼って	いつ	どこで